

住民参加型防災啓発教育の試行とその効果 (小田原市曾我谷津地区における防災タウンウォッチング)

群馬工業高等専門学校 正会員 ○三上 卓

富士常葉大学 正会員 小川雄二郎

成和コンサルタント(株) 正会員 泉 博允

三井共同建設コンサルタント(株) 正会員 原田 紹臣

富士常葉大学 正会員 後藤 洋三

1. はじめに

近年、新潟県中越地震や新潟県中越地震などの地震被害を受け、さらに、東海地震や南海地震、首都直下型地震の発生が危惧されていることから、地震発生の確率が高いとされている都市や地域では、自治体を中心とした耐震対策や防災訓練が盛んに行われている。防災対策において、ハード面(施設)の整備は即効性、確実性の点で大変重要であるが、細かな避難経路の機能確保が困難なことや地震時の住民の行動に大きな差異が生じることから、住民個々の安全面を完全に確保しきれるとは言い難い。

その中で、防災タウンウォッチングとは、近年主流となりつつある防災教育(訓練)の一つで、実際に災害が発生した際に地域住民の混乱を回避するため、住民自らが周辺の危険箇所や避難路等を再点検(チェック)することを目的とした住民参加型防災啓発教育の一手法である。

本稿では、神縄・国府津一松田断層帯地震をはじめとする地震被害の発生が危惧されている「神奈川県小田原市曾我谷津地区」を対象に、防災タウンウォッチングを試行し、参加者(地域の自治会担当者等の男女 18 名)に対するアンケート調査を実施した。それらの概要について報告する。

2. 防災タウンウォッチングの概要

今回実施した防災タウンウォッチングの目的は、「地震防災に対する意識向上」とともに、「地震時における住民の冷静かつ的確な判断に基づく適切な行動を身につける」ことである。普段何気なく歩いている街を、防災の視点から見直すことで、街の問題点を再発見するとともに、実際に町を歩くことによる住民の防災意識(関心、知識など)の向上を促すも

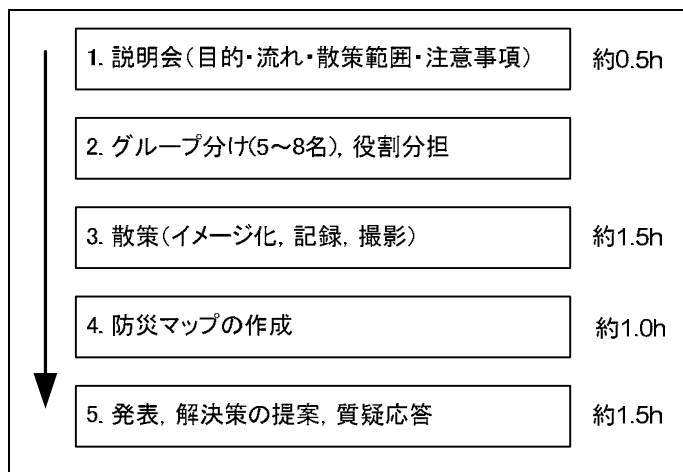


図-1 防災タウンウォッチングのフロー

のとも言える。図-1 に、実施した防災タウンウォッチングのフローを、写真-1 に、散策の状況を示す。

2.1 散策

防災タウンウォッチングの実施にあたっては、グループ内の各個人が地震時の被害状況をイメージしながら、下記に示す項目について、ボラロイドカメラやメモを用いて、記録や撮影を行った。

<着眼する項目>

- ①地震発生時において危険と想定される場所
(例: 倒壊が懸念されるブロック塀、可動が懸念される自動販売機、落下が懸念される看板等)
- ②災害対応資器材及び保管場所
(例: 水利、街頭消火器、消防団・防災市民組織の格納庫、雨水貯水槽・銭湯等)
- ③広場等の安全確保可能な場避難場所等
(例: 神社、お寺、公園、畑、駐車場等)
- ④災害時に役立つ場所等
(例: 病院、診療所、井戸、災害時優先電話等)
- ⑤公共施設
(例: 消防署、警察署、区役所、町会会館、学校等)

キーワード 地震防災、防災タウンウォッチング、防災マップ、住民参加

連絡先 〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町 580 番地 群馬高専環境都市工学科 TEL : 027-254-9189



写真-1 散策の模様



写真-2 防災マップ作成の模様



写真-3 グループ発表の模様

⑥道路幅の測定

(例：消防車両が通行可能調査等)

2.2 防災マップの作成

散策終了後、知り得た情報や写真等を室内に持ち帰り、グループ内で意見交換を踏まえた整理を行った(写真-2)。その際、効率的に整理をするため、白地図を基に、写真の貼付、コメントの記入、想定避難ルート表示を行い、防災マップとして完成させた。ポラロイドカメラを使用したのは、散策後、すぐに、白地図に貼付するのを容易にするためである。図-2に作成した防災マップの一例を示す。さらに、防災上問題とされる箇所について、誰が改善を行うのか、改善を行うにはどのような手順を踏まえるのかという解決策の提案も行った(図-3)。

2.3 グループ発表 質疑応答

防災マップの完成後、グループ毎に防災マップの提示、散策およびマップ作成時の注意点や知り得た情報の発表を行った(写真-3)。参加者全体で討議することにより、同じ散策の対象場所においても、各々で違う視点や事項が存在することが再認識でき、気づかなかった部分を補足し合うことにより、一層効果的に記憶に残ることに繋がったと言える。

2.4 アンケート結果

防災タウンウォッチング終了後に、アンケート調査(有効回答数 13)を実施した。参加者の多くが地域防災に関する役割を担っている方々であったが、防災に関する学習経験がない方は、災害に備える準備が行われておらず、防災タウンウォッチングの実施は事前準備を促す要因と成り得たと考えられる。

3. まとめ

今回の防災タウンウォッチングの実施により、参加者の防災意識の向上が見られたが、年配の方の参加が多く、このようなイベントに参加することが少



図-2 作成された防災マップの一例

番号	問題点	解決策	実施する人・組織
1	ブロック塀(①②③) 倒壊の恐れ	所有者に申し入れ	所有者
2	ゆるやかなカーブ(④)	東京電力に依頼して⑤⑥	東京電力
3	電柱(⑦⑧⑨⑩) 不要なものを取り除く、電線の整理	所有者に依頼して⑪⑫⑬	所有者
4	ガレキ(⑭⑮⑯)	所有者に依頼して⑰⑱	行政(国・県・市)
5	川筋にエサの溜り(⑲)	国や県市と相談(費用)	行政(国・県・市)
6	消火栓 見えにくい(⑳)	市に要望する	行政(市)
7	消火栓 確保(㉑㉒㉓)	市に要望する	行政(市)

図-3 提案された問題解決策の一例

ない若年層への実施が必要だという意見が得られた。さらに、地元住民に対し、専門家がアドバイスすることで、より深い理解と解決策が得られたとの意見も得られ、効果があったと思われる。

謝辞：本研究は、土木学会 地震工学委員会 防災企画推進小委員会の活動の一部をとりまとめたものである。本タウンウォッチングにご参加頂いた、「神奈川県小田原市曾我谷津地区」の住民の方々、および、タウンウォッチングの実施にご協力頂いた委員の皆様方に、ここに記して感謝の意を表します。